



厚木基署発 1105 第 1 号  
令和 3 年 1 1 月 5 日

公共工事発注機関の長 殿

厚木労働基準監督署長

建設工事現場における交通誘導警備業務の労働災害防止の徹底について（要請）

日頃から労働基準行政の推進に格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当署では建設業における労働災害防止を行政運営上の重点課題として各種施策に取り組んでおりますが、当署管内に所在する警備業者に所属する警備員が神奈川県内の建設工事現場において交通誘導警備中、本年 7 月、一般車両に激突され重篤な負傷をした労働災害、本年 10 月、後退する工事用車両の下敷となり死亡した労働災害が立て続けに発生しております。

建設工事現場で交通誘導警備にあたる警備員の労働災害を防止するためには、建設工事の元請による適切な統括管理の下、関係請負人、警備業者、工事用車両の運転者及び警備員が、相互に連絡調整を図りつつ、周囲の状況を確認しながら安全に工事を進めていくことが不可欠です。

つきましては、建設工事現場の交通誘導時等における労働災害防止対策のより一層の徹底を図るため、下記の事項を踏まえた労働災害防止対策について、貴機関が発注する公共工事の関係事業者に対し、周知徹底を図られますようご協力をお願いいたします。

#### 記

##### 1 適正人員の確保

交通誘導業務（警備）実施日の建設工事現場の作業状況及び工事特性等を考慮し、適正な人員の警備員を確保すること。

##### 2 警備計画の作成及び周知

建設工事現場の警備業務について、警備業者に警備計画を作成させ、警備員に警備計画書、警備指令書等に基づき、工事内容、警備業務の範囲等を十分に把握させるよう励行すること。

##### 3 車両系建設機械、荷役運搬機械等を用いる場合の作業計画の周知

建設工事現場において、交通誘導業務を行わせる場合、あらかじめ警備業者に対し、車両系建設機械、荷役運搬機械等の作業に関する作業計画を提供し、警備計画書、警備指令書等において、交通誘導業務実施の警備員に作業内容を周知するよう励行すること。

#### 4 交通誘導位置の確認

元請、関係請負人及び警備業者の間で、交通誘導位置（立ち位置）及び車両からの避難場所について、事前に打ち合わせを実施し、現場の状況の変化に応じ、必要の都度、交通誘導位置等を調整すること。

#### 5 保護具及び装備品の適正な着用等

交通誘導警備員に、当該業務の状況に応じた保護帽、安全靴、安全ベスト等の適正着用及び装備品（手旗、誘導灯、警笛、トランシーバー等）の適正使用を励行すること。

#### 6 保安用資機材の適正設置

道路工事現場等の状況に応じ保安用資機材（保安柵、セフティコーン、ラバーコーン、回転灯、衝突吸収緩衝材、各種表示板等）を適正に設置し、確実な維持管理のための点検を励行すること。

#### 7 特殊車両等の運転特性等の周知

交通誘導警備業務の建設工事現場において使用される各種の工事車両について、その運転特性（前進、後退、斜行、旋回、つり上げ、牽引等）をあらかじめ警備員に周知し、受傷事故を防止させるよう励行すること。

#### 8 合図の確認

元請、関係請負人及び警備業者との間で、合図の方法、動作等について事前に打ち合わせを実施し確認するよう励行すること。

#### 9 交互通行時の誘導

交互通行時には、起点及び終点その他必要な箇所の安全な場所に警備員を位置させ、相互に緊密な連携を保つように努めさせること。

#### 10 後退車両の誘導時における危険防止

後退車両を誘導させる場合、事前に右折又は左折の有無等について車両運転者

と打ち合わせを行い、運転者の死角に入らないようにし、音声又は警笛を使用し  
て誘導させるよう励行すること。また、誘導方向に壁や車両等の障害物がある場  
合、障害物との間に挟まれるおそれのある場所に警備員を立ち入らせないこと。

#### 1.1 車両接近警報機能等を有する工事用車両の使用励行

車両接近警報機能（①車両後方のセンサーにより警備員及び作業員の接近を感  
知し警報音を発生する機能、②警備員及び作業員の保護帽にセンサーを装着させ  
工事用車両に接近すると運転席の警報装置が危険を知らせる機能、③カメラ付対  
人センサーが運転者の死角の人を感知した場合、即時、警報音を発し工事用車両  
が強制停止する機構等）の車両後退時における危険防止機能を有する工事用車両  
の使用を励行すること。